



ソフトフロント事業概要

株式会社 ソフトフロント
証券コード：2321
(大証ヘラクレス)
2006年11月19日

目次

- 1 . 「ソフトフロント」とは
- 2 . 事業概要
- 3 . 中長期の事業戦略
- 4 . 第10期での課題
- 5 . 上期の主な取り組み

1. 「ソフトフロント」とは...



1-1 企業理念とビジョン

■ 企業理念（＝私たちの存在意義）

技術を愛し、技術を提供することによって、社会変革の牽引役となり豊かな社会を実現すること

社会環境の変化：ユビキタスネットワーク社会の実現
SIPを活用した end-to-end（人と人、機器と機器、人と機器）
のネットワーク環境を実現

■ ビジョン

当社SIP技術をデファクトスタンダードにする
ライセンスビジネスの成功



1-2 企業概要

- 社名 株式会社ソフトフロント
- 上場市場 大阪証券取引所「ヘラクレス」
- 証券コード 2321

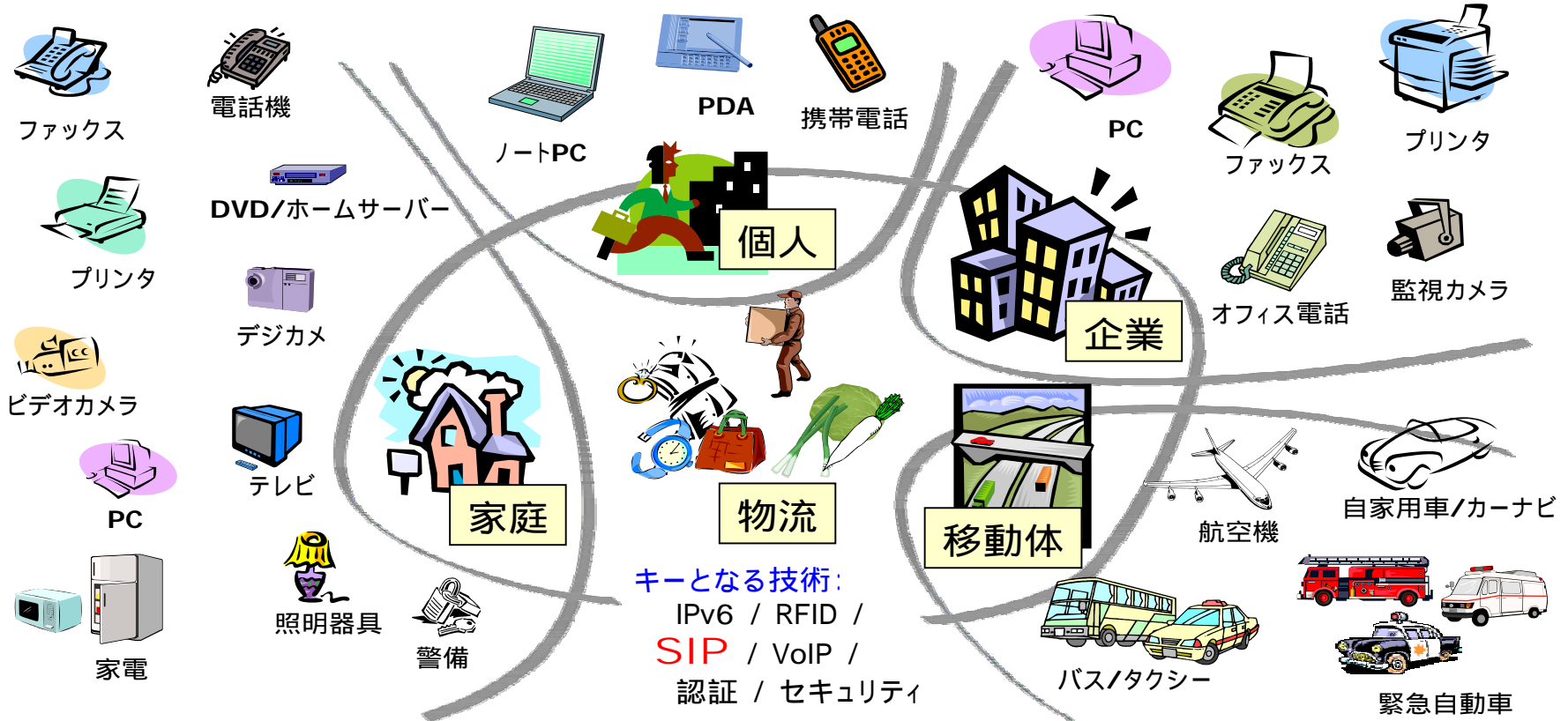
- 設立 1997年(H09)4月18日
- 所在地 東京本社 東京都港区赤坂4丁目2-19 赤坂SHASTA・EAST 3F
札幌本社 札幌市中央区北9条西15丁目 札幌ITフロントビル 3F
- 取締役 会長 村田利文
- 代表取締役 社長 阪口克彦
- 従業員数 55人(臨時雇用および派遣会社からの派遣職員含)
- 資本金 2,717百万円
- 決算月 3月
- 事業内容 SIP、VoIP技術を核としたソフト開発環境の提供
および 技術支援、関連する受託開発・コンサルテーション

- URL www.softfront.co.jp

2 . 事業概要



2-1 ユビキタスネットワーク社会を実現するキーテクノロジー「SIP」



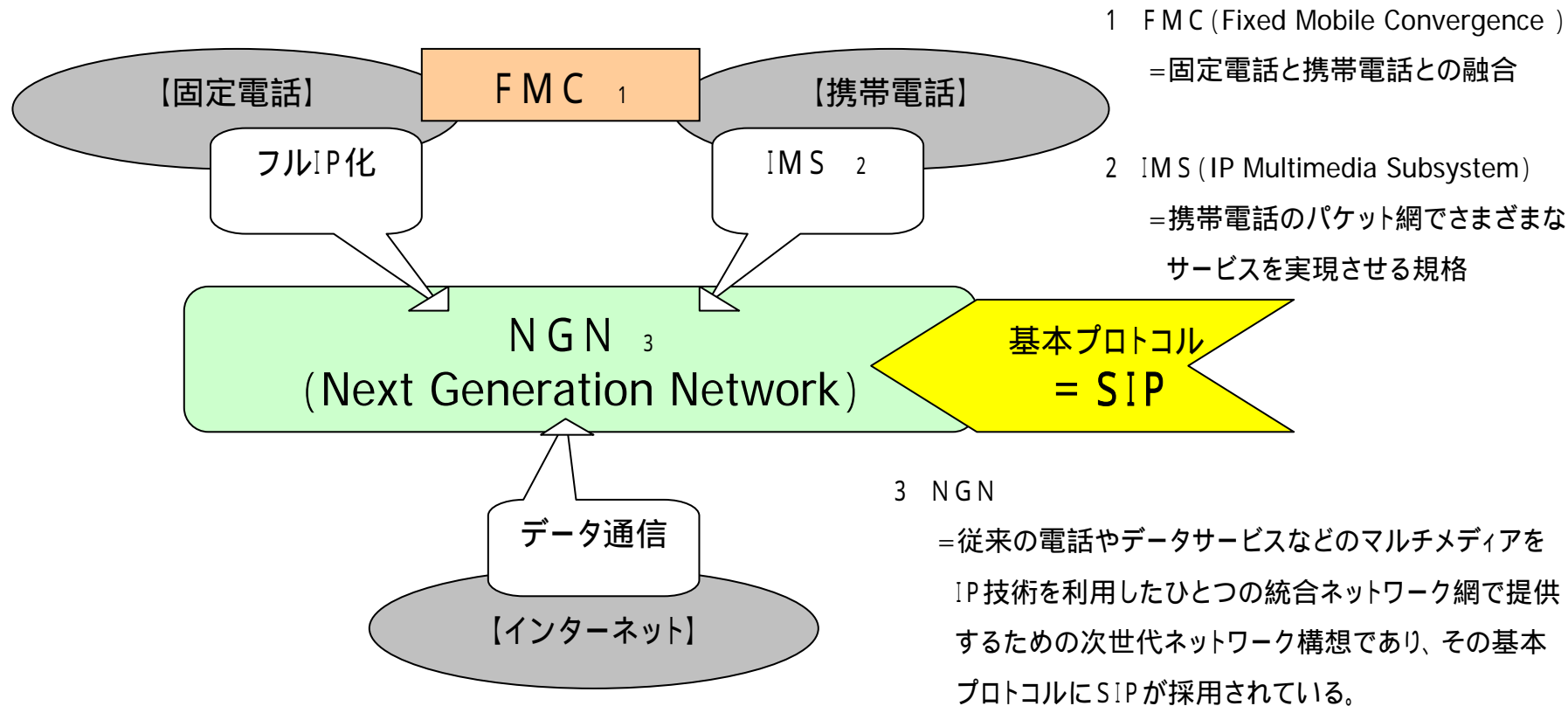
有線や無線のネットワークで物理的に繋がった機器同士を、情報のやりとりができるよう論理的につなぐテクノロジーが「SIP」であり、ソフトフロントはこの「SIP」を中心に事業を展開しています。

(時には移動する) 相手を探し出す。
相手に自分の状態を知らせる。

相手とつなぐ。(刻々変わる) 相手の状態を知る。
何をどうやり取りするかを(その場で)決める。

➡ SIPの役割

2-2 次世代ネットワーク構想とは



既存の3大インフラがひとつに融合するという大きな動きのなかで、そのベースにSIPが使われることが決まったことは、当社としても大きなビジネスチャンスであると捉え、積極的に取り組んでまいります。

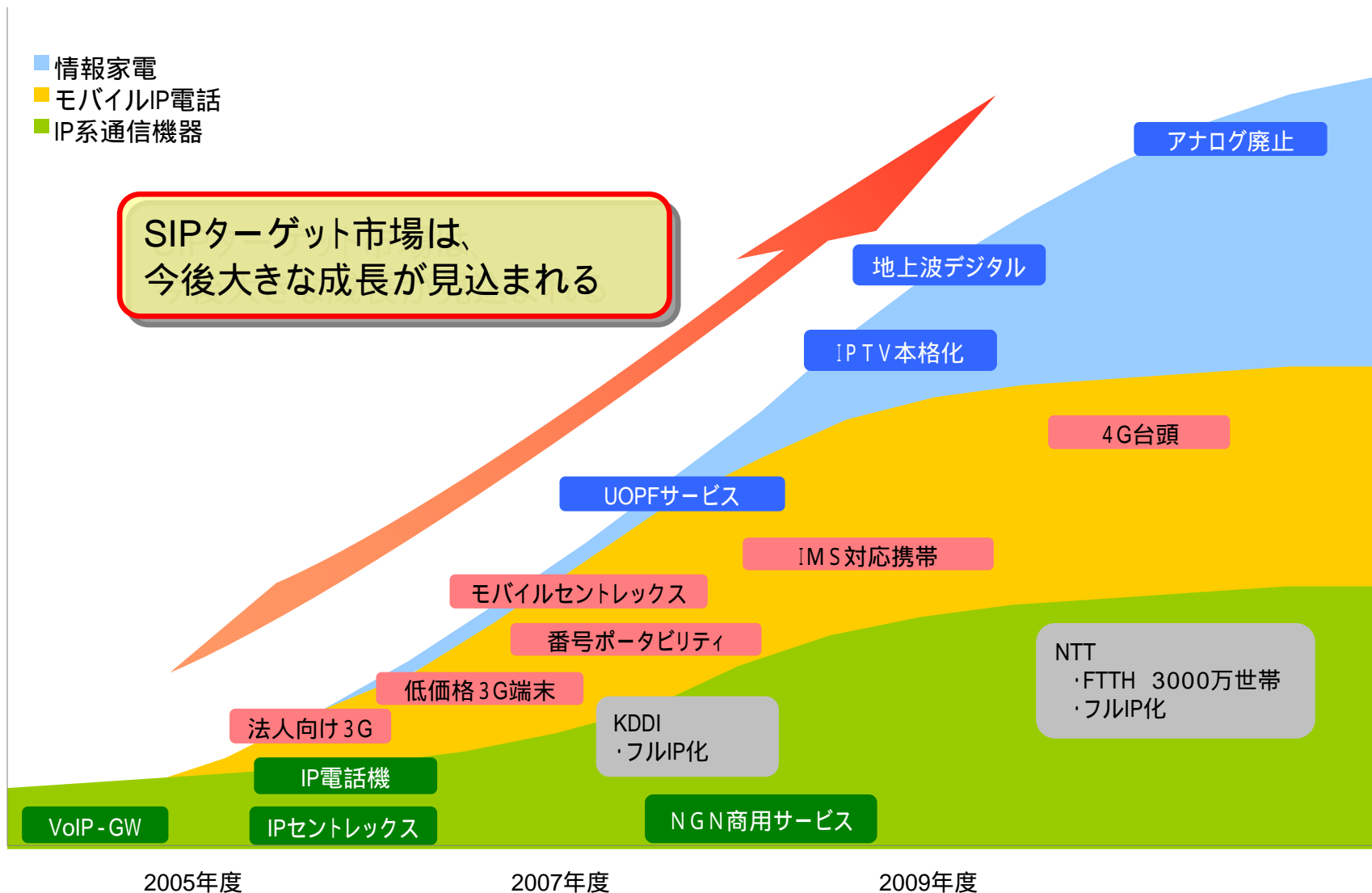


2-3 ターゲット市場

市場規模

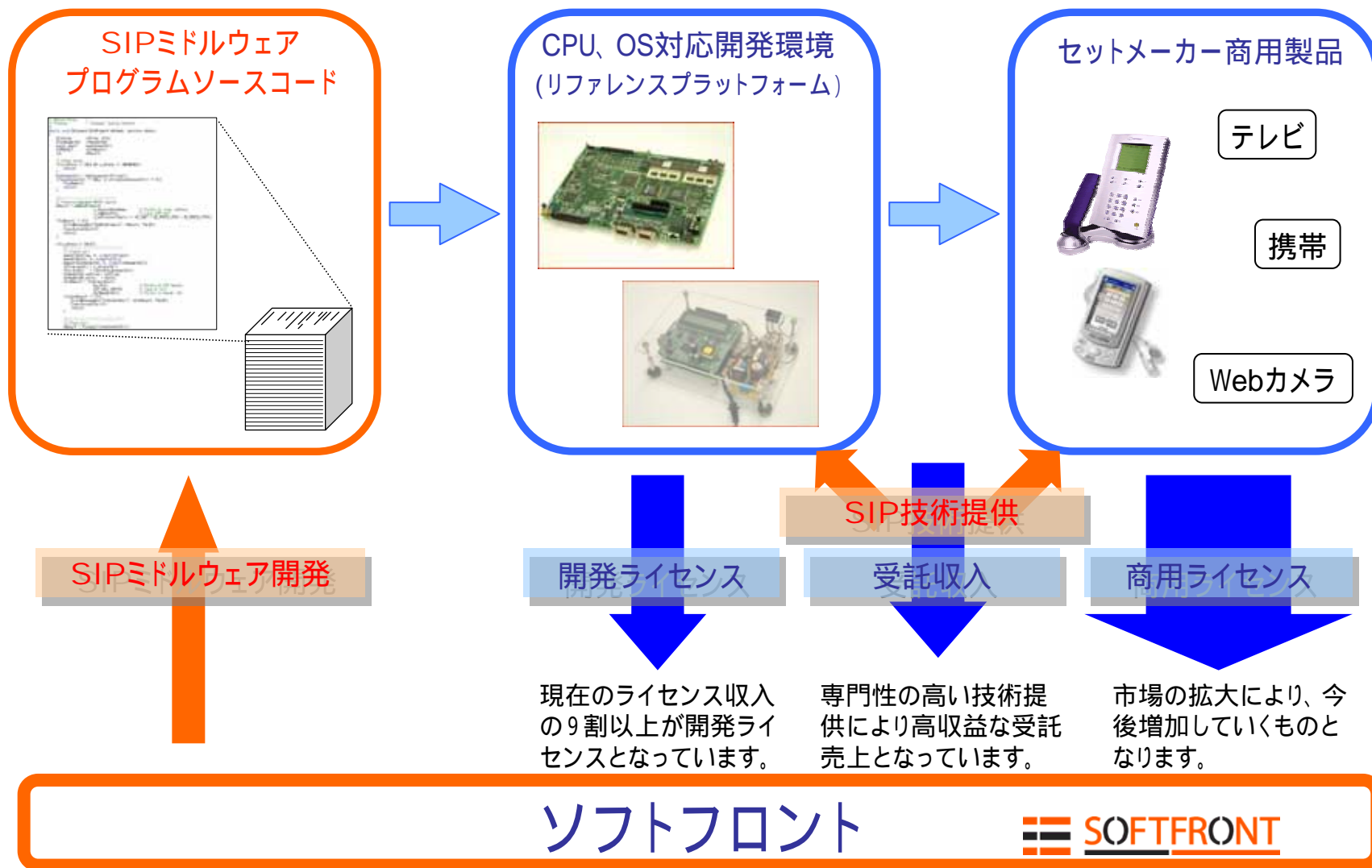
- 情報家電
- モバイルIP電話
- IP系通信機器

SIPターゲット市場は、
今後大きな成長が見込まれる





2-4 ビジネスフロー



参考例



インフィニオン「INCA-IP」対応
SIP/VoIP開発環境



NECエレクトロニクスMP211対応 次世代
携帯電話開発プラットフォーム



ルネサステクノロジSH-Mobile対応
SIP-IPモバイル電話開発キット



ENEリアルタイムOS「OSE」対応
SIP端末開発キット「Bluestreak」



NECテレネットワークス AccessPro
TESTER VoIP/LANユニット (仮称)
イメージ画像



カシオ計算機 法人向け携帯情報端末
「CASSIOPEIA DT-5200」



2-5 SIPミドルウェアが採用されるのは

SIPは差別化技術ではなく、「互換性の技術」

- 他社、他製品と「つながる」ことが重要
- 「独自性・差別化」よりも「互換性・接続性」

継続した開発が必要なSIP技術

- 今も拡張され続けるSIP規格
- 接続性の維持に、継続した開発・取り組みが必要
- NGN、IMS等の最先端技術を各プラットフォーム向けに開発することが必要

組込みソフトウェア開発コストの向上

- 組込みソフトウェア技術者の人材不足
- 複雑さを増し、大規模化する、組込みソフトウェア

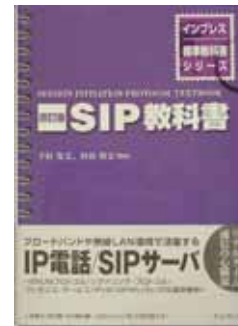
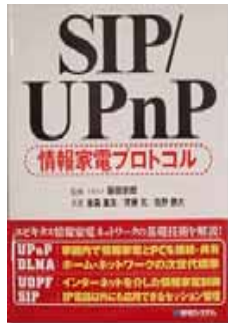
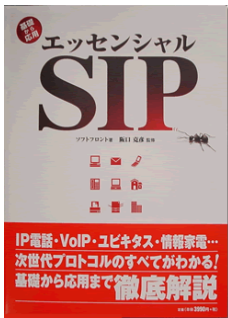


**SIP技術を「プラットフォーム標準化」することにより、
機器開発メーカー様は開発・保守コストを軽減できる。**



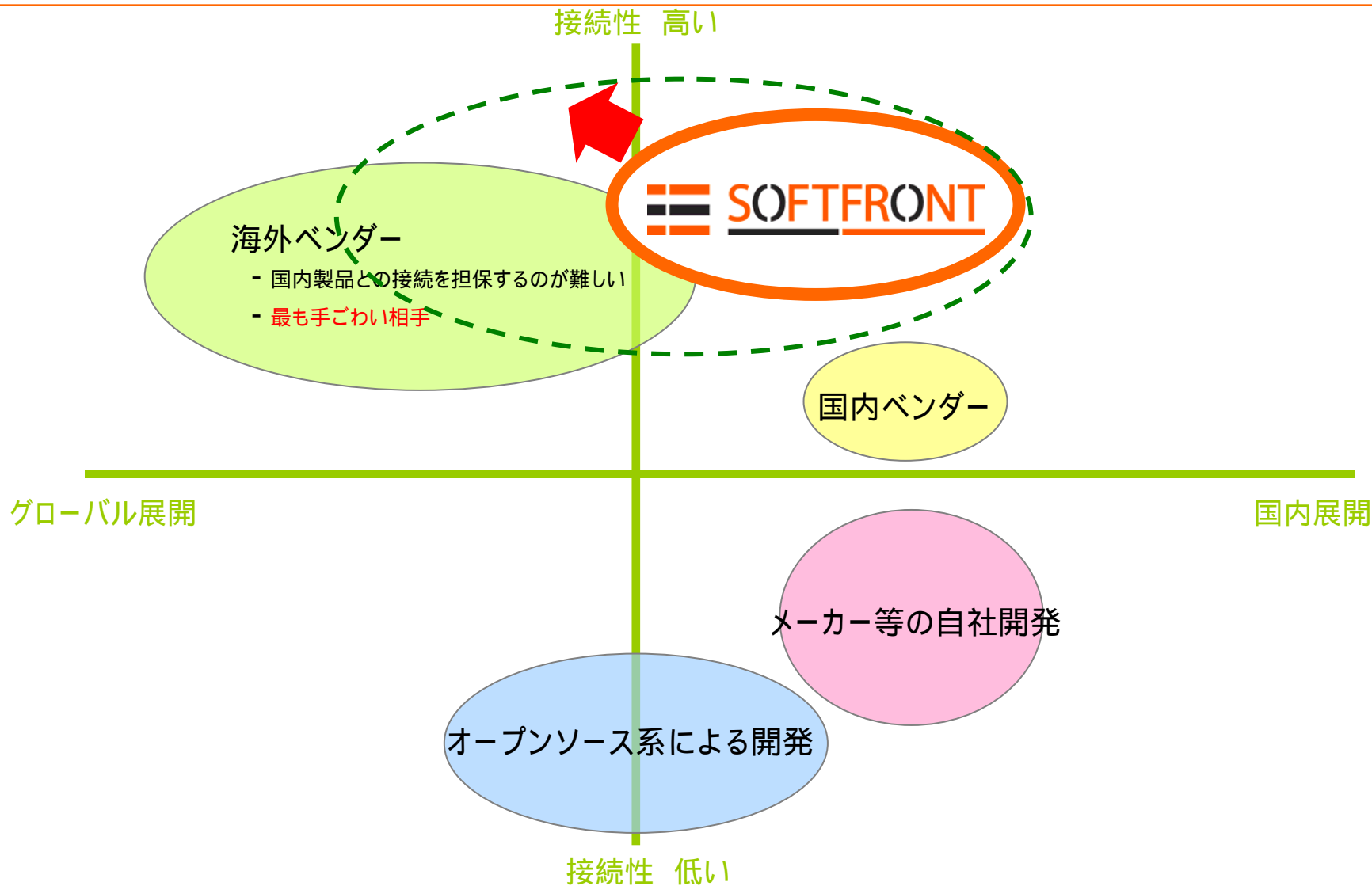
2-6 当社SIPミドルウェアの強み

- **日本で最も初期から開発**され、実績もあり、様々なノウハウが積み重ねられている。
- 国内外で開催される多くの相互接続検証イベントに参加。
接続性の高さはトップレベル。
- **SIPのオピニオンリーダー**として活躍
 - 雑誌、書籍、標準仕様翻訳等では業界で圧倒的な知名度



- SIPの専門会社として、幅広いプラットフォーム対応製品をそろえ、標準仕様の対応範囲も充実。

2-7 当社SIPミドルウェアのポジショニング



3 . 中長期の事業戦略

3-1 5カ年計画 ビジョン

5カ年計画

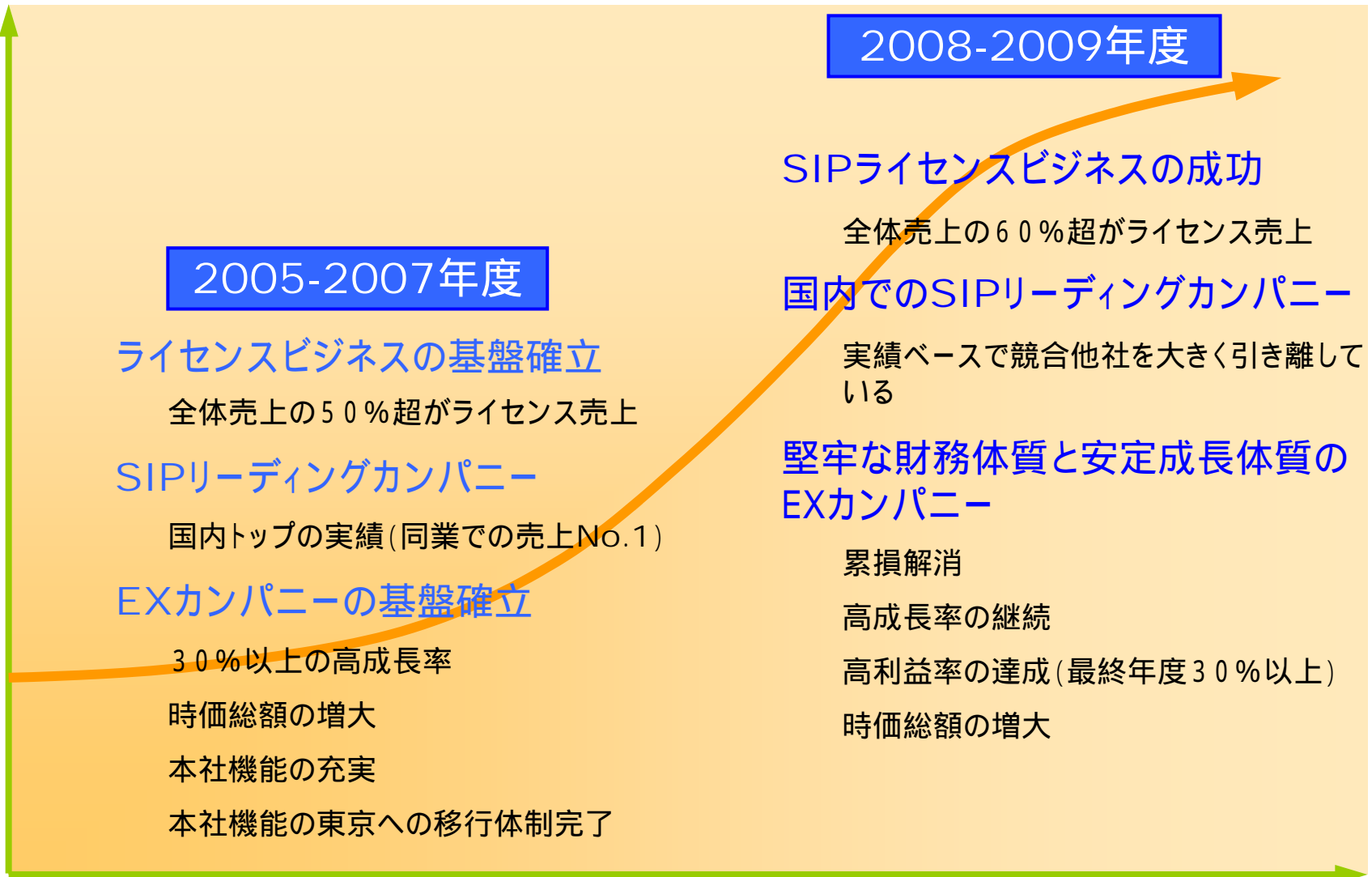
**第一次 Excellent Company 構想
～ SIPデファクト獲得計画 ～**

優良な企業体質を作り上げると共にSIPデファクトスタンダードの獲得を進め、**ライセンスビジネスの成功**を狙う。



3-2 第一次Excellent Company構想

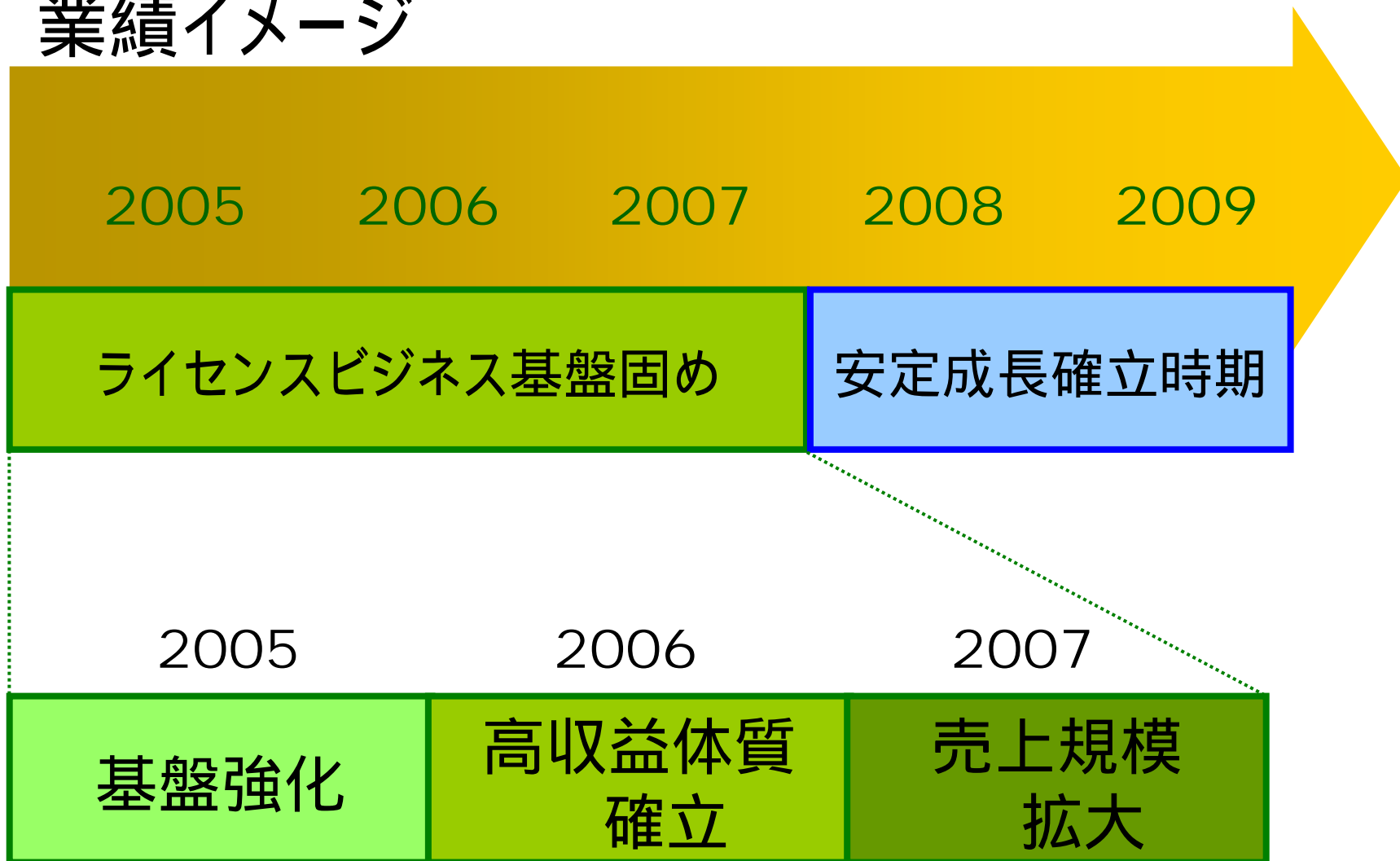
事業規模



第一次 Excellent Company 構想

3-2 第一次Excellent Company構想

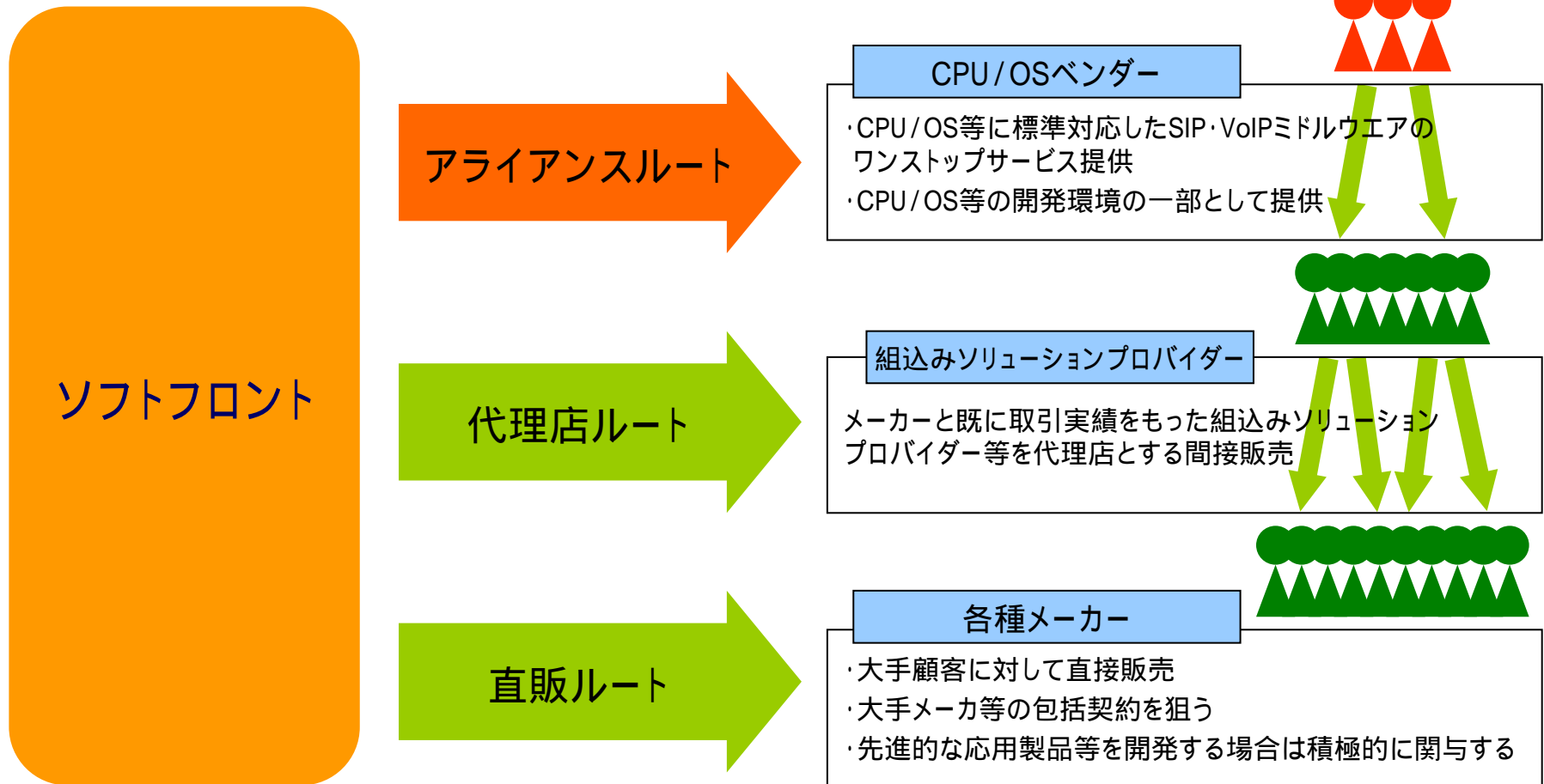
業績イメージ



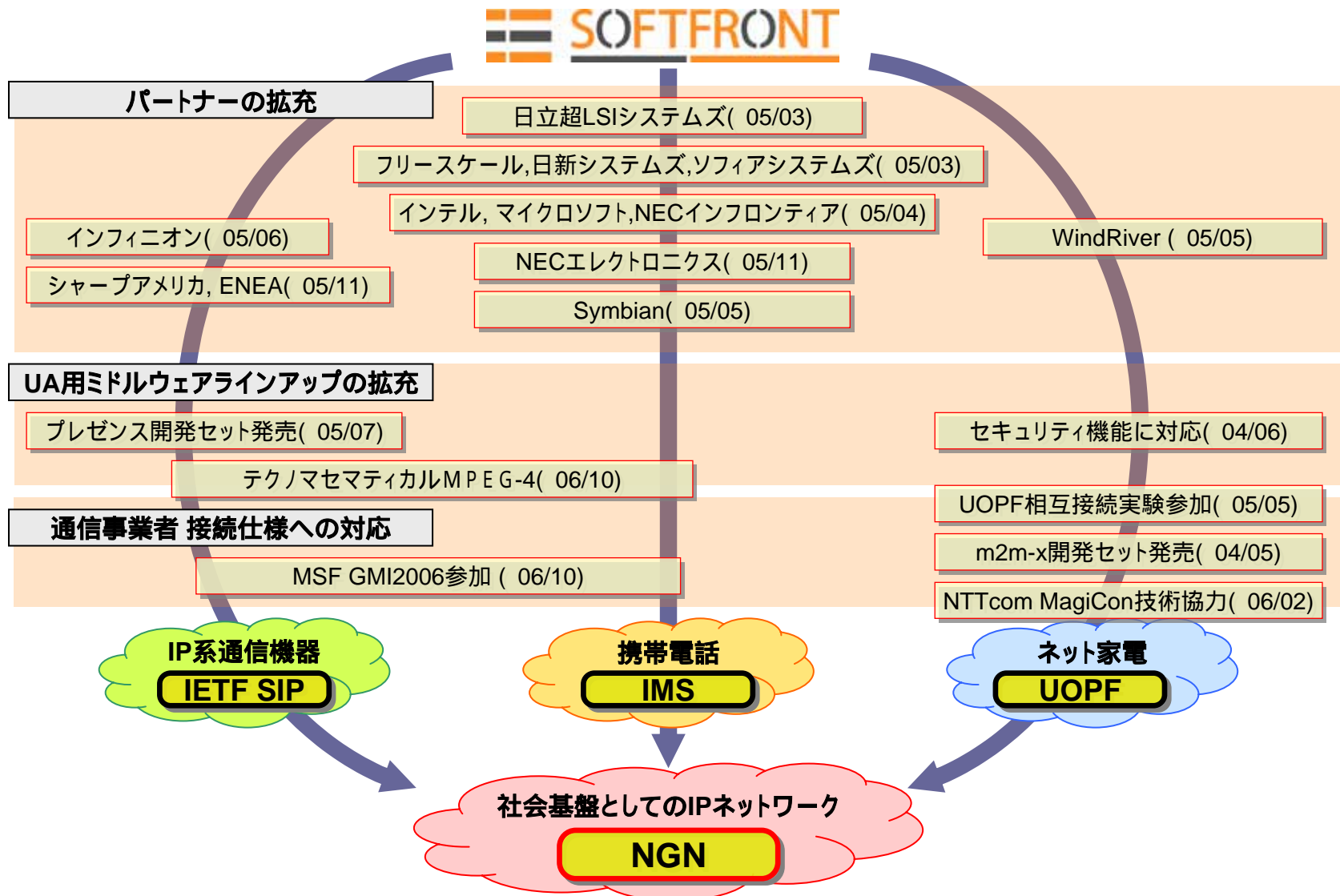


3-3 販売戦略

- お客様からみて、どこで購入しようとしてもソフトフロントのSIPが出てくる状態を作る (金太郎飴作戦)



3-4 取組実績一覧



4 . 第 1 0 期 での 課題

第10期(2006年度)「高収益体質確立」の年としての取組。

売上拡大
(前期比50%超)

携帯分野シェア確立

情報家電立ち上がり

販売チャネルの強化

ブランド力の活用

開発部門一体の営業

黒字化達成
(経常利益率7%)

業務プロセス改善

予算実績精度の向上

財務経理の東京移転

5 . 上期の主な取り組み



5-1 売上拡大に向けた取り組み

販売チャネルの強化

- ・ドイツ、fg microtec社と資本業務提携を行い、拡大する欧州次世代携帯電話端末市場への体制を強化。
- ・昨年より共同推進しているNECエレクトロニクス社の新発想プラットフォーム「platformOVIA」で動作するPoC(Push-to-Talk over Cellular)アプリケーションを共同で開発、次世代携帯電話端末のグローバルな普及促進に向けた提案力を強化。
- ・フリースケール社、ウインドリバー社と共同で、各社の技術を統合したリファレンス・ボードを作成、通信機器メーカーや家電メーカーなどへの提案力を強化。
- ・テクノマセマティカル社の画像圧縮技術の採用を決定し、ビデオフォンアプリケーション開発のための提案力を強化。

ブランド力の活用

- ・SIPキービジュアルを作成し、当社がSIPリーディングカンパニーであることの浸透を図る。

開発部門一体の営業

- ・開発部門が商談初期段階から参加し、技術的信頼感の獲得と継続的顧客関係構築を強化、前年同期比57.7%増の受注を獲得。



5-2 黒字化達成に向けた取り組み、および技術力強化

業務プロセス改善

・業務プロセスの改善に取組み、社内全体の業務を効率化。

予算実績精度の向上

・予算実績分析の手法を改善することにより、予算実績精度が向上、期初業績予想値を達成。

財務経理の東京移転

・財務経理部門を営業拠点である東京に移転、営業支援力を強化するとともに、迅速的確に経営判断に資する計数資料を提供する体制を構築。

技術力の強化

・東京大学国際・産学共同研究センター安田浩教授が当社技術顧問に就任、豊富な経験と卓越した識見に基づく助言、および最新の技術動向の教授により、当社技術力をより強化。

・次世代携帯情報端末アプリケーションの標準化団体「OMA」に参加、標準規格に準拠したミドルウェア製品のより迅速な提供が可能となる。

5 - 3. 第10期の主なプレスリリース



主なプレスリリース(2006年4月以降)

2006/04/04 フラグシップとソフトフロント、Symbian OS v8対応SIP/VoIPミドルウェアを販売開始

2006/04/24 ソフトフロント、札幌グランドホテルの新サービス構築に協力

2006/05/09 ソフトフロント、NECエレクトロニクスの新発想プラットフォーム「platformOVIA」に対応したSIP/VoIPミドルウェアの開発・販売を積極展開

2006/05/15 ソフトフロント、OMA規格に準拠した「PoCライブラリ」の提供を開始

2006/06/06 ソフトフロント、次世代携帯情報端末アプリケーションの標準化団体「OMA」に参加

2006/06/20 ソフトフロント、フリースケール、ウインドリバーが共同でSIP/VoIP製品開発向け

2006/06/21 ソフトフロントとNECエレクトロニクス、platformOVIAに対応したPoCライブラリで協業

リリース内容の詳細は当社HP ([http:// www.softfront.co.jp](http://www.softfront.co.jp)) をご覧下さい。



主なプレスリリース(2006年4月以降)

- 2006/06/26 ソフトフロント、IMSプラットフォーム実現のための国際相互接続試験「GMI2006」に参加
- 2006/07/24 ソフトフロント、ドイツのfg microtecとの提携によりSIP/IMSミドルウェア技術における体制を強化
- 2006/08/01 ソフトフロントとジェネティックラボは、北海道大学と共同で高齢者ドライバーサポートシステムを開発。モニターを一般募集。
- 2006/08/24 ソフトフロント、札幌グランドホテル、札幌パークホテル向けにインターネットによるフルスペック・ハイビジョン映像のライブ伝送システムを開発・提供。
- 2006/10/03 ソフトフロント、テクノマセマティカルの画像圧縮技術、MPEG-4を採用、SIP/VoIPミドルウェアと併せ、ワンストップでの提供を開始
- 2006/10/10 ソフトフロント、国際相互接続試験「GMI2006」でIMS対応高機能ソフトフォンを提供
～ GMI2006における数少ないSIPスタックベンダーとして参加 ～

リリース内容の詳細は当社HP ([http:// www.softfront.co.jp](http://www.softfront.co.jp)) をご覧下さい。

SIP connects the future

ソフトフロントはSIP技術を基に社会変革の

牽引役となり、豊かな社会を実現します

株式会社ソフトフロント

[http:// www.softfront.co.jp](http://www.softfront.co.jp)